キャラクター名
神代　照

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー エンジェルハィロゥ	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	大学生
オプショナル		年齢	19	性別	男
覚醒	命令	衝動	解放	初期侵食率	33 %
出自	姉妹	経験	秘密	邂逅	師匠

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	3	0	0			3
精神	2	1	3	2		8
社会	1	0	0	1		2

HP	32
行動値	14
(非装備時)	14
戦闘移動	19
全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	11		交渉		
回避			知覚	1		意志	2		調達	2	
運転：			芸術： 家事	6		知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ	2		情報：UGN	2	
運転：			芸術：義姉愛	1		知識： 法律			情報： 噂話	3	
運転：			芸術：			知識： 義姉	1		情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				
闇夜の太陽船	ＲＣ	8r+11		18		2+3+4。C値8。
光輝の大複合神殿（100↑）	ＲＣ	16r+11		47		2+3+4+5。C値7。
光輝の大複合神殿（160↑）	ＲＣ	18r+11		56		2+3+4+5。C値7。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：UGN幹部	
コネ：噂好きの友人	
思い出の一品	
メモリー：家族	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
戦闘用人格	P	N		
大里天子	P 幸福感	N 劣等感		
内なるモノ	P 信頼	N 恐怖		
舞姫の心髄 -ﾌﾟﾘﾏ・ﾊｰﾄ-	P 懐旧	N 悔悟		
日岡義生	P 誠意	N 不安		
月草颯音	P 好奇心	N 不安		
月草理音	P 〇興味	N家族か...		

最大財産P: 8	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	—	
効果： 飛行状態で戦闘移動。移動距離＋（LV×2）m。								
コンセントレイト：エンジェルハィロゥ	2	2	メジャー	—	—	—	—	
効果： C値－（LV）　※最大値7								
光の弓	1	1	メジャー	視界	—	対決	—	
効果： <技能：RC>攻撃力＋（LV＋2）。同エンゲージ不可。								
氷の塔	5	4	メジャー	視界	範囲（選択）	対決	—	
効果： <技能：RC>攻撃力＋（LV×3）。同エンゲージ不可。								
マスヴィジョン	3	4	メジャー	—	—	対決	100↑	
効果： <技能：シンドローム>攻撃力＋（LV×5）。1シナリオ3回。								
シークレットトーク	1	—	オート	視界	単体	自動	—	
効果： オーヴァード同士の会話を行う。非オーヴァードには判読不能。								
天使の絵の具	1	—	メジャー	視界	シーン（選択）	自動	—	
効果： 我が威光を見るがいい！（相手の<知覚>vs自分の<RC>）								
不燃体	1	—	常時	至近	自身	自動	—	
効果： 無駄無駄！								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

神代　照（かみじろ　てる）。

この春に大学に進学した19歳。入学直後から接客のバイトを始め、照の思い描く理想の学生生活に向けて正に舵を切ったばかりだ。大学では法律を専攻しており、義姉である大里天子と同居しながら大学に通っている。照自身はUGNの施設で過ごしていたが、大学に進学したことをきっかけに姉と同居することになった。

照と姉は義理の姉弟同士ではあるが、本当の姉弟のように仲が良い。非日常では、お互いがお互いのミスをカバーしあうベストパートナーであり、日常ではお互いに愛の言葉をかけあうことを怠らない、つまるところいちゃいちゃしているのだ。

照は幼少のころ、家族全員でエジプト旅行に行ったことがあり、彼らはその際、エジプト考古学博物館に訪れ、館内に収められた数々の展示品に心躍らせながら楽しんでいた。その中で照が最も興味を抱いたのが古代エジプトはファラオの遺体だった。照自身はその遺体に何らかのものを感じたというが、当時の照には結局何のことだか分からずじまい。何事もなく日本に帰国した。

それからしばらくして、彼に大きな転機が訪れる。
彼が小学生の頃のある日の深夜、彼の家に放火が行われた。その火は瞬く間に神代家を包み、あっという間に神代家は炎に飲まれた。照は放火の直後にお手洗いのために目を覚まし、部屋に戻ってしばらくして火の手に気づいたが、そのときには既に遅かった。“死にたくない、まだ死にたくない！”照が心底からそう願ったとき、どこからか声が聞こえた。“ならば、余の力を使うがよい”____その後のことは、覚えていない。次に気がつけば、病院のベッドの上。傍らには担当医らしき人物が立っていた。その担当医から聞かされた話によると、照自身は奇跡的に軽傷で済んだこと、照の両親はすぐに病院に搬送されたが一酸化炭素中毒によって死亡が確認されたことを聞かされた。その話を聞かされ、医者が病室からいなくなったあとに再びあのとき____あの火事から自分を救ったであろう存在____の声とともに、内なる声の主の姿を照は垣間見ることになった。

“貴様、余の想像以上だな。...ふむ、この余を目の前にして、決して恐れずに向け続けるその視線、その中に眠る確固たる信念。本来なら貴様のような幼子など